

久しぶりのフォークダンス

安齋育郎

昨年の8月から土日・祝祭日を除く毎日、朝8時にご近所衆とラジオ体操をしています。会場は近くの宇治市文化センター前の広場で、20人程が参加しています。ラジオ体操第1と第2を音楽に乗ってやるだけですから、かかる時間は10分かそこらですが、80歳過ぎの私たち夫婦には、適度な運動です。私も、福島に行って留守をするとき以外は必ず参加しています。

私たちが住む宇治市折居台地区は、「台」の字がついていることからもお分かりのように「台地」で、てっぺんが海拔120m程で、折居台の登り口の交差点が海拔63mなので、落差は57mもあります。ちなみにわが家は海拔84mで、ラジオ体操会場の文化センター広場が海拔73mですから落差は11m、階段にするとおよそ55段分に当たります。

この企画の言い出しっぺはわが家の斜め向かいのKさんご夫妻で、700世帯ぐらいの折居台地区に住みながら、日ごろほとんど住民同士の交流がないことに「何とかできないか?」と感じて、「そうだ。みんな知ってるラジオ体操をやろう」と提案したところ、賛同するご近所衆が集って、意外に長い間毎日続いているのです。雨が降ったら中止ですが、不思議に雨天と出くわすことが少ないので、当然、企画提案者のご夫妻は「晴れ男に晴れ女」と呼ばれますね。

100日ぐらい経ったころ、あのNHK的な定番の伴奏に飽きたのか、大阪弁版とか東北弁版とかも試されましたが、今はまた定番の伴奏に戻っています。まるで小学生みたいに首から出席カードをぶら下げて三々五々会場にやってくると、ハンコ係のRさんが明るい声で「おはようございます」と話しかけ、ハンコを押してくれます。

現在のラジオ体操第1が制定されたのは1951（昭和26）年5月で、その年の9月に「ラジオ体操の歌」（脇太一作詞、大中恩作曲）が発表されましたが、これは現在の歌ではなく、現在の「ラジオ体操の歌」（藤浦洸作詞、藤山一郎作曲）が発表されたのは1956年3月です。この作詞者・作曲者はともに戦争に協力した人々なので、毎朝この歌を聞くとやや複雑な思いです。でもラジオ体操参加者でそんなことを気にかけているのは、多分私一人でしょうね。なお、最初の「ラジオ体操の歌」の作曲者・大中恩（おおなか・めぐみ）さんはたくさんの童謡も作った人で、「犬のおまわりさん」「赤とんぼ」「サッチャン」などはよく知られています。

昨年の9月にはラジオ体操参加者で宇治市植物園にあるレストラン「蝶々」で昼食懇親会を開き、クリスマスの時期には文化センターの中にある「For the life Café」で懇親交流会を開催、私は手品をやらされました。参加者からは、「安齋先生のお話を聞きたい」といった要望も出されたところを見ると、どうも私の素性はバレバレのようです。このクリスマスの会では一人300円程度のプレゼントを持参して、ランダムに配分されました。わがパートナーはハンコ系のRさんが持参した水栽培用のヒヤシンスの球根をもらいましたが、水を入れたガラス瓶に乗せ、越年して約1か月、美しい香り高い花が咲きました。Rさんには花の姿を和紙に割り箸を削って作った即席ペンと墨汁で描いてお礼にしました。こうして、ラジオ体操参加者は「見も知らぬご近所衆」からだんだん「折居台仲間」になってきました。「この会に名前を付けたい」という世話人の提案があったので、私が、「折居台の人々が折々に会うのだから“折々の会”ではいかが」と提案し、そう決まりました。

ところでラジオ体操の会は、途中から「月曜日にはラジオ体操の後にフォークダンスをやろう」ということになりました。便利なことにご近所衆の中にフォークダンスのリーダーご夫妻がいるのです。それで月曜

日ごとにフォークダンスをやるのですが、面白いことにラジオ体操に参加した女性たちは大体残るのに、男で残るのは言い出しっぺご夫妻のご主人と私だけなのです。あとの男性陣は何となく気恥ずかしいのでしょうか、ラジオ体操が終わるとそそくさと引き上げます。今はみんなで手をつないで踊るポーランド系の音楽で踊っています。

町内の平和はこんな感じで育まれるのでしょうか。なかなかいい感じで、少しずつですが参加者が増えつつあります。世話役は「町内会に認知してもらって、補助金が受けられれば」というので、いろいろアピールしてくれているようです。

次の懇親会では『安齋育郎のウクライナ戦争論』も話題に乗せようと思っています。実に改訂第9版は初版の72頁版の1.5倍に増頁して、「108頁、フルカラー、図版満載、1冊300円」と銘打って1万部をめざして普及中です。元外務省の条約局長だった東郷和彦さんも『ウクライナ戦争論』を読まれて、「小生が全く知らなかった情報を含め、誠にいま日本人に少しでも読んでほしいものだと思います」という感想を寄せました。この本の内容を基調とする私の講演会が1月28日に宇治市であったのですが、「洛タイ新報」という京都府南部の地方紙が、「安齋さん講演会、ロ・ウ戦争の背景に迫る、極端な偏向世論に警鐘、健全な懐疑論者であれ」という見出しで、上段から下段に及ぶ大きな記事を載せてくれました。

さて、ご近所衆はどういう反応を示されるでしょうか、楽しみです。